

# 論壇

## 新興国で電子マネー普及

中国やインドなど新興国で2次元コードを利用した電子マネーが急速に広がっている。利用者は店にある2次元コードをスマホで読み取ること、その場で支払いを済ませることができる。現金を持つ必要もないし、お釣りの手間もない。利用者に決済の費用負担はないし、店が払う手数料も非常に安い。

テレビのインタビュアーの中で中国人の利用者が発言していたが、中国では偽札なども多く現金に対する信頼がない。そうしたことがスマホ決済を広げる理由の一つと

伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

なったようだ。ちなみに、インドでは汚職や脱税などを防ぐため、額面の大きい紙幣の利用を禁止した。それで一時混乱も起きたが、それがスマホ決済へのシフトを加速化したようだ。

現金社会の日本ではあるが、大手の金融機関は2次元コードを利用したスマホ決済を進めようとし

多い。一党独裁体制で、社会の不安分子を取り除くため国民の情報欲しい、と政府が考えてもおかしくない。

翻って、なぜ日本ではこれだけ現金が流通しているのか。いろいろな理由があるだろうが、その中でも重要なのが匿名性であることは間違いない。誰がいつどの

## スマホ決済と匿名性の課題

ている。そのための共同の取り組みが発表された。スマホ決済ができることは結構だが、不安もな

いわけではない。中国では、アリペイなどのスマホ決済の情報は全てアリババに入ることになる。その情報は政府に提供されているのではないかと疑っている専門家も

ような買い物をしているのか誰にも知られない。こうした匿名性を多くの人は重視しているようだ。

ちなみに、交通系などのプリペイド型の電子マネーは匿名性が維持されている。誰がどこで何を購入したのかという情報は明らか

にはされない。それに対して銀行からの引き落としとなるクレジットカードやデビットカードは、理論的には誰がどこで何を買ったのかという情報が残る。匿名性を維持するような取り組みを金融機関やカード会社がルー化するまでは考えられるが、それがどこまで守られるのかは分からない。ハッカーなどセキュリティ上の問題も起こりえる。

### 社会が情報共有する是非

2次元コードを利用したスマホ決済でも、個人が2次元コードを匿名で取得でき、それがプリペイドの仕組みであれば、交通系などのプリペイドカードと同じく匿名性は確保される。ただ、使い勝手

はだいぶ制限される。匿名性が守られることは絶対に必要だと言っているわけではない。どうせインターネットなどの利用で匿名性は失われているので、情報が企業などに集まるのはやむを得ないという考え方だってありえる。情報を社会が共有することで、国民の利益になることが多い面もある。

ただ、匿名性が維持されるかどうかは、人によつて考え方が違うだろうし、多くの人にとって非常に重要な問題である。便利さだけに目を奪われないで、こうした情報社会の中で匿名性が失われていくことをどう考えるべきなのか。スマホ決済が広がる中でしっかりと議論を進めていくべきだろう。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。